

2020.09.26読売新聞

米映画祭でプラチナ賞

読売テレビ 12歳全盲ドラマーを追う

響希君はまるで見えているかのようにドラムをたたく



読売テレビ制作のドキュメンタリー「ママもう泣かんといいな〜12歳 全盲ドラマーが奏でる『音の世界』」が、米国の第53回ヒューストン国際映画祭ドキュメンタリー部門でプラチナ賞を受賞した。

同作は、小児がんで失明した12歳の酒井響希君（大阪府東大阪市）が、ドラム演奏を通じて多くの人に勇気と希望を与える姿を追った。響希君は2歳で両目を摘出。母親の顔を見ることさえかなわない中で音に興味を示し、3歳頃からドラムをたた

き始めた。

2013年に知人の紹介で音楽デュオ「Def Tech」に出会い、将来、共演することを約束。プロドラマーを目指し練習を積み、4年半後の18年に念願の舞台が実現した。母親に対し「僕は僕に生まれてきてよかった」と語りかける響希君の姿は、障害の有無を超えて見る者の心に響く。安部祐真ディレクターは「取材をして、こんなに人に伝えたいと思ったことはなかった。母子の絆、人間の強さを感じてもらえたら」と話す。